

令和7年度 授業改善推進プラン 算数科

	観点別		
学年	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1年	- 学習したことを定着させるため、既習事項について日常の中で活用できるように児童に声をかける。実生活とのつながりがもてるように他教科や生活の中でも具体的な場面が作れるように意識していく。 - 数量(加法・減法)や図形などの基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせる。 - ブロックや時計などの使い方を定着させ、自力解決への素地を養う。 - 既習事項の定着を図るため、計算のミニテストを取り入れる。 - タブレットドリルを活用し、習熟を図る。	- 算数的活動を多く取り入れ、自分の考えを説明できるようにさせる。 - 立式の根拠や計算の仕方等について言葉で説明する機会を多くもつ。 - 問題を解く際に自分なりの図が描けるように指導し、文章と図と式の関わりを明確にできるようにする。	- ICT機器を活用して課題を視覚的に示したり、関心を高めたりしながら授業に参加できるようにする。 - ノートの書き方を定着させ、学習の振り返りができるようにしていく。 - ペアワークの時間を設定し、主体的・対話的に学習できるようにする。
2年	- 長さや水のかさの単位については、問題を繰り返し解くことで理解の定着を図る。 - 四角形や三角形の図形については、作業的に操作することでそれぞれの図形の仕組みを理解させる。 - 加法と減法の筆算を確実にできるようにする。 - 九九の学習では、リズムをつけた暗唱をくり返し行い、乗法の基礎が定着するようにする。また、タブレットのくりかえしドリルやAIDドリルを活用するなどして、九九が定着できるようにする。 - タブレットを効果的に活用し、学習に取り組み、習熟を図る。	- 数と計算では、身近な事象を取り上げ、九九表の規則性などを既習事項をもとに考えさせる。 - 自分の考えを分かりやすく説明できるようなノート指導を行い、学習の振り返りにつなげるようにする。 - 量感を養うために、さまざまな量を比較・対比することで思考力を養う。 - 複数の解決策を提示して最適なものを選ぶことで判断力を養う。 - 図やグラフを使って視覚的に表現させる。	- 作業的・体験的な活動を取り入れ、児童が主体的に学習する態度を養う。 - 習熟場面と活用場面を設定し、習得したことをもとに自分で考えられるような授業展開を行い、ペアワークの時間を設定し、主体的・対話的に学習できるようにする。
3年	- 四則の計算問題を繰り返し行い、定着させる。特にかけ算やわり算は確実に定着できるように、授業の始めに反復練習に取り組めるようにする。 - 単元のテストをする前にプレテストを実施し、習熟できているか確認し、自身の苦手な箇所について復習する時間をとる。 - タブレットを活用し、既習内容を繰り返し取り組み、習熟を図る。 - 放課後補習教室、水曜補習教室、家庭学習などを活用し、基礎的な内容を理解できるようにする。	- 既習の考え方を基にして、自分の考えを図や数直線や式などで表すことができるようにする。 - 日常の事象について、見通しをもって筋道立てて考えたり、表現したりする機会をもつ。	- 少人数指導のよさを生かして、児童一人一人の進度に沿った学習内容を工夫する。 - 問題に興味をもって取り組めるよう、導入の工夫をする。 - 既習を想起したり、関連付けたりしながら問題を解き、「わかった」「できた」の充実感をもてるようにする。 - 自らすすんで問題を解決しようと取り組む姿を称賛し、価値づける。
4年	- 乗法や除法が確実にできるように、計算や文章問題等を繰り返し取り組めるようにする。 - コンパス、三角定規、分度器を使って表したい図形が正しく表せるように繰り返し練習させる。 - タブレットを活用し、既習内容を繰り返し取り組み、習熟を図る。 - 放課後補習教室、水曜補習教室、家庭学習などを活用し、基礎的な内容を理解できるようにする。	自分の考えを表現するための「思考ツール」を身に付けさせ、答えに至るまでの過程を、筋道を立てて考えたり伝えたり表現したりする力を高めるようにする。問題解決の場面において、児童自らが思考し、それを数学的表現によって表現する活動を豊富に経験させる。	- 少人数指導のよさを生かして、児童一人一人の進度に沿った学習内容を工夫する。 - 問題に興味をもって取り組めるよう、導入の工夫をする。 - 既習を想起したり、関連付けたりしながら問題を解き、「わかった」「できた」の充実感をもてるようにする。 - 自らすすんで問題を解決しようと取り組む姿を称賛し、価値づける。
5年	- 基礎的な四則計算技能を高め、小数の乗法や除法の計算の仕方が定着できるよう継続的に練習に取り組む。 - 図形の描き方を定着させるために、分度器やコンパスを使って継続的に練習に取り組めるようにする。 - 単元のテストをする前にプレテストを実施し、習熟できているか確認し、自身の苦手な箇所について復習する時間をとる。	- 立式する際には、数直線や図を活用する等、自分の考えを視覚的に表現させる。 - 友達に考えを説明・質問する時間を取り、より分かりやすく伝える(表現)する力を養う。 - 立体的に捉えづらい図形問題では、デジタル教科書を使用し、図形を移動・変形させて想起しやすくする。 - 記述式の問題に無回答・誤回答の児童がいるので、自力解決の際にキーワードを黒板に書き、思考の際に一助となるようにする。	- 少人数指導のよさを生かして、児童一人一人の進度に沿った学習内容を工夫する。 - 児童にとって身近な興味や気付きなどから問題設定を工夫する。 - ドリルパークを活用して自分の習熟状況に合わせて学習を進められるようにする。 - 既習を想起したり、関連付けたりしながら問題を解き、「わかった」「できた」の充実感をもてるようにする。 - 自らすすんで問題を解決しようと取り組む姿を称賛し、価値づける。
6年	- 基礎的・基本的な学習内容の定着を図るため、授業内に計算スキルを行い確認を行う。 - 当該学年以前の未習熟の学習内容を習熟するため、朝自習・家庭学習で下学年の復習を行う。 - タブレットドリルを活用して個別に学習を進められるようにする。 - 面積・体積を求める問題では公式を忘れていた児童が多数いたため、再度、公式を覚える場を設定し、復習する機会を設ける。	- デジタル教科書(ICT)を活用し、視覚的アプローチを行い考えやすくしていく。 - 単位量あたりの計算と割合での立式で誤答(無回答)が目立ったため、数直線の活用の仕方を身に付けるため立式の際に数直線から考える、問題から数直線に表す交互の作業を取り入れて、図と問題文との関係を理解しやすくする。	- 苦手な傾向が異なっているので、焦点を絞って、補充学習を行い、練習問題にくり返し取り組み自信をもたせる。 - ドリルパークを活用して自主的・主体的に学習を進められるようにする。 - 日常生活と関連させて例題を提示していく。 - 既習を想起したり、関連付けたりしながら問題を解き、「わかった」「できた」の充実感をもてるようにする。 - 自らすすんで問題を解決しようと取り組む姿を称賛し、価値づける。